

河野村開拓団と祖父と私

講師：胡桃澤伸さん（劇作家・精神科医）

主催：三鷹市、NPO 法人中国帰国者の会

《 NPO 法人中国帰国者の会から皆さまへ 》

かつて戦争中、傀儡国家「満洲国」を作り上げ、国策となった「町村を単位とする分村移民」事業は官僚組織や移民関係各機関により強かに推進されることとなり、各町村は分村移民送出を強く迫られました。敗戦時まで「満蒙開拓移民」で送出されたのは 27 万人。うち長野県は 3 万人を超え、中でも下伊那郡は多く送出しています。この下伊那郡河野村(かわの)村長の胡桃澤盛さん(講師の胡桃澤伸さんの祖父)は「分村移民」に踏み切ったのです。しかし、送出した村民はソ連侵攻時現地の中国人に襲われるなどのなかで 73 人が集団自決してしまいました。このことを知った胡桃澤盛氏は自責の念に堪えがたく、1946 年 42 歳で自らの命を絶てってしまったのです。

「NPO 法人中国帰国者の会」はこのソ連侵攻時に棄てられ、生き残ったものの戦後も放置され続けた「中国残留邦人」の支援をしている会です。戦後の放置と「満蒙開拓」という国策は無関係ではなく、続いているのです。今回はそうした視点も含め「満蒙開拓とは一体何だったのか」を問う講演会・学習会です。「新しい戦前」と言われる今の状況を考える際に、「満蒙開拓」の学習は不可欠です。

なぜ胡桃澤村長は村民を送出し、なぜ自殺したのか？ 信越放送制作のドキュメンタリー「決壊 祖父が見た満州の夢」(2018 年 2 月 10 日放映)を観て、胡桃澤伸さんのお話を聞きながら参加者と共に考えたいと思います。是非多くの方々のご参加をお待ちしております。

【胡桃澤伸さんのお仕事・ご経歴】

1966 年、長野県生まれ。95 年から神戸大学精神神経科での勤務を開始。その後、大阪、東京、千葉の病院で勤務。専門は統合失調症、外傷性精神障害。劇作家として「くるみざわしん」の筆名で作品を発表している。「同郷同年」が「日本の劇」戯曲賞 2016 と第 25 回 OMS 戯曲大賞、「忠臣蔵・破 エートス／死」が 2019 年文化庁芸術祭新人賞を受賞。共著に『中井久夫講演録統合失調症の過去・現在・未来』、近著に『くるみざわしん精神医療連作戯曲精神病院つばき荘／ひなの砦ほか 3 篇』（いずれもラグーナ出版）がある。

日時：2024 年 1 月 28 日（日）

午前 11 時 30 分～午後 4 時 20 分（開場午前 11 時）

休憩あり

場所：三鷹駅前コミュニティ・センター

地下 1 階大会議室

三鷹市下連雀 3-13-10

三鷹駅南口から徒歩 5 分

定員：60 名(申込不要)

参加費：無料

※中国語の通訳が入ります。



NPO 法人中国帰国者の会

070-5588-7827

<http://kikokusha.com>

中国帰国者の会は 1982 年に元「中国残留婦人」の鈴木則子会長ら 10 数名で産声を上げ、2004 年 2 月に NPO 法人化しました。私たちは、二度と戦争を起こさない社会を、そして二度と「中国残留邦人」を生み出さない社会、帰国者の皆さんが「本当に帰ってきて良かった」と思える社会を目指しています。

本講演会の問い合わせ先

070-5588-7827